

診療用放射線による影響について

(診療用放射線の安全利用に関する説明書)

放射線を用いた検査を受けるにあたって

検査で使用される放射線の量は少なく、健康への影響はほとんどありません。

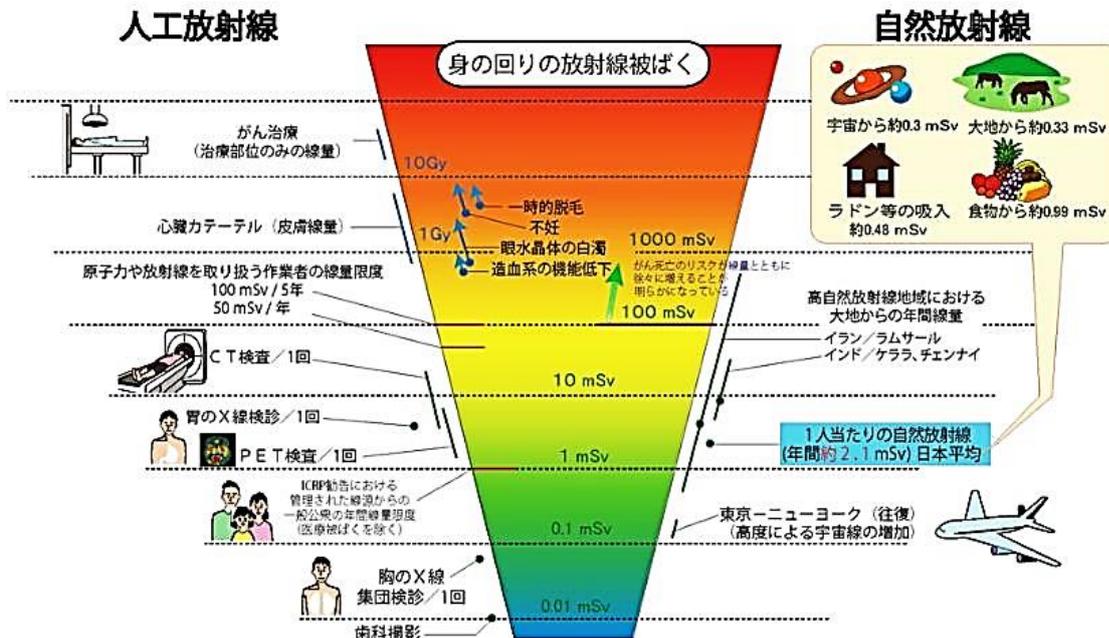
安心して検査を受けていただくために放射線の特徴について説明します。

1.この検査により想定される被ばく線量と影響について

この検査で想定される被ばく線量は以下の通りです

検査薬による被ばく線量	約 3 ミリシーベルト
CT による被ばく線量	約 4 ミリシーベルト
合計被ばく線量	約 7 ミリシーベルト

理論値であり体格などにより変動します



出典：
・ 国際科学委員会 (UNSCEAR) 2008年報告書
・ 国際放射線防護委員会 (ICRP) 2007年勧告
・ 日本放射線技術学会医療被ばくガイドライン
・ 新版 生活環境放射線 (国民線量の算定) 等により、放射線医学総合研究所が作成 (2013年 5月)

mSv : ミリシーベルト

疫学調査の結果、**1度の被ばく線量が100ミリシーベルトを超えると発がんのリスクが高まるが、100ミリシーベルト以下では明確なリスク上昇を確認できないとされています。**

人体には放射線による影響に対する修復機能があるため、複数回のX線検査を受けた場合でも放射線の影響が全て蓄積するわけではありません。

2.この検査の必要性について病気の発見・治療・経過観察には放射線を用いた検査が必要となります。

医師は検査による被ばくのリスクと、病気の発見や治療によるベネフィットを比較し、放射線検査が必要であると判断した場合のみ検査を行います。

不安がありましたら医師にお尋ねください。

放射線を用いた検査の必要性、影響について納得されたうえで別紙同意書にご署名ください